

社会資本維持管理はもはや国全体の課題～社会資本アセットマネジメントのすすめ～



赤木寛一
論説委員
早稲田大学理工学術院・教授

社会資本アセットマネジメントとは

社会資本アセットマネジメントは、公共機関などが施設などの固定資産の入手、維持管理を行うために投資を行う際に、ライフサイクルコストのみの最小化を目指すのではなく、供用上の便益性などの社会的要請を考慮するマネジメントとされている。本稿では、まず社会資本維持管理は施設の管理者のみに委ねることなく、国と地方公共団体が協力して取り組む必要があることを指摘したい。また、国または地方公共団体として維持管理に投資するために土木技術者が広く国民に説明を行うために、アセットマネジメントの工学的検討の結果を財務諸表などの会計情報に変換することの重要性を述べることとする。

研究教育に取り入れた経緯

この種の問題に取り組むこととなったきっかけは、今から 10 年以上前に、ある社会資本関連事業者の施設の劣化とマネジメントに関する相談を受けたことに始まる。これからの土木は環境・防災とマネジメントだと見定めて、2006 年前期に大学の派遣で半年間アングロサクソン系の社会資本マネジメントが盛んなニュージーランド、カンタベリー大学で集中して勉強する機会を得ることができた。帰国後に、筆者が担当する授業科目である従来の「道路工学」を「道路アセットマネジメント」に名称を変更するとともに、授業内容も前半に社会資本マネジメントの背景と理論を導入し、後半に従来の舗装工学を中心とする道路工学から構成することとした。

この授業の導入部では、経済学の歴史的変遷を述べている。経済学が今日のように一つの学問分野としてその存在が確立されたのは、アダム・スミスの「国富論」に始まるといわれている。スミスは「国富論」で、国家主権の果たすべき責務として、第一に国防の責務、第二に司法の責務、第三には公共的な土木事業および青少

年の教育に関わる責務を挙げている。ここで、公共的な土木事業と青少年の教育は広い意味における「社会的共通資本」であり、市場経済が円滑に機能するための環境の形成ならびに維持は国家主権の責務であることを明示している。

さらに、宇沢弘文は「社会的共通資本」の概念を導入し、その概念は市民の基本的原理に依存してその具体的内容が規定されることを指摘している。具体的には、ある希少資源から生み出されるサービスが市民の基本的権利と密接なかかわりを持ち、かつ市場的なメカニズムを通じて供給されると、社会的正義、実質的所得分配の公正という観点から望ましくない帰結をもたらすときにその希少資源は社会的共通資本として分類され、社会的に管理されることが望ましくなることが指摘されている。すなわち、種々の規制や管理制度の撤廃緩和、社会的共通資本の私的 management ないしは所有への移管などの現在でも顕著に見られるこれらの政策は、前記の宇沢が指摘する社会的共通資本の概念に基づいて社会資本維持管理が社会的に管理されるべき観点からみて適切でないことは明らかである。

具体的な導入方策

以上のような経済学的背景を明示した上で、授業では社会資本アセットマネジメントにあたっては、どのような基本方針でマネジメントを実施していくかを定める必要があり、この基本方針を定めるにあたっては、サービスレベルや費用負担に関する利用者・納税者へのアカウンタビリティをどのように果たすかについて考え方を整理しておく必要性を指摘している。このために、アセットマネジメントの中核部分である中長期予算計画では、各種の社会資本施設にどのような物理的劣化や損傷が生じていてそれが将来どのように進行するのか、またいつどのような対策が必要となるかといった工学的な問題解決と対策のための予算総額および単年度予算の平準化といった予算上の制約から構成される予算計画上のシナリオとの組み合わせで全体の整合を図ることができることを述べている。このシナリオに基づく予算編成のプロセスで財務諸表等の会計情報が整備され、国や地方公共団体としての社会資本維持管理への投資に対する十分な説明責任が果たされることになる。